

ちょっと読んでみませんか (令和三年正月)

第57話 『令和三年 今年の言葉』 (本源寺副住職 本間健司)

令和二年は、本当に、信じられないような一年でした。

昨年、正月向けのプリントを書いていた頃は、「なんだかんだいっても、きつと東京オリンピックで盛り上がっているだろう。」と思っていましたから、まさに『**事実は小説より奇なり**』という言葉を心髄まで実感されたような気がします。

世界的な感染拡大と急激に変化する日常のなかで、私は、僧侶として、**【祈り】**ということに、真剣に向き合わざるを得ませんでした。

世界中の人々が不安や恐れの中で苦しんでいる現実、医療従事者の方々が命がけで戦ってくれている状況、また、未曾有の災害のなかで批判を覚悟で判断を迫られる各界の代表者たち。そんな方々の姿を思い浮かべた時、はたして、**【祈り】**の力・効果は本当に有るのかと。

さて、コロナ禍のある日のこと。お盆の帰郷が出来ず、私は、体調を崩しがちだった母が心配で、携帯電話で母にメールを送っていました。

私の横に座っていた息子が、メールを送信するのを知らせる電話のライトが点灯したのを見て、こう言ったのです。

「もうバアバのところにもメッセージが届いたんだね。なんでそんなに早く届くのかなあ？ すごいよね。」と。

たしかに、冷静に考えてみると、本当にすごいことですよね。小さな機械のボタンを一つ押しただけで、一瞬で300kmも離れた人に想いを届けることが出来るんですから。まさに“神通力”です。

私たちの身の回りには、携帯電話の「電波」のように、目に見えない物質・存在が、たくさん飛び交っています。「電波」の他にも、「光」「音波」「赤外線」「紫外線」「放射線」、はたまた「香り」や「風」なども、目には見えませんよね。

また、本年十一月に亡くなられました、ノーベル賞学者である小柴昌俊氏は、太陽系の外側から地球に降り注いでくる「ニュートリノ」という微粒子を世界で初めて観測するという偉業を残されました。

そして、なんと！最新科学では、私たちが強く「祈ったり」、「想ったり」することによって、私たちの身体から超微細な物質や波動が放出されていることが、証明されつつあるというのです！——『**生ける宇宙**』アーヴィン・ラズロ著(日本経文社)等参照

皆さんは信じられますか？

【祈る】ことの力・効果について、日蓮聖人は、『祈禱鈔(きとうしよ)』という御文章のなかで次のように説かれています。

「法華經の行者の祈る【祈り】は、響きの音に応ずるがごとし。影の形に添えらるがごとし。澄める水に月の映るがごとし。方諸ほうしよ(満月の夜に月から露を採るといわれる鏡)の水を招くがごとし。磁石の鉄を吸うがごとし。琥珀こはくの塵ちりを(静電気によって)取るがごとし。あきらかなる鏡の物の色を浮かぶるがごとし。

…法華經の行者の【祈り】の叶わぬことはあるべからず。」

750年も前に、【祈り】の力を「響き」「音」「磁石」など科学的な表現を使って譬えていることに、聖人の深い悟りの境地を感じずにはいられません。

また、その日蓮聖人が命懸けで信じ実践された『法華經』には、現代人にとっては信じがたいような、宇宙全体を舞台とした壮大な物語が説かれているのですが、先ほど取り上げました『生ける宇宙』という本を読むと、まさに『法華經』に説かれる教理と、最新の科学が合致し得ることが手に取るように分かるのです。

大宇宙の真理を悟られた存在であるブツダ(仏様)の言葉が、2500年の時を経て、「科学」をもつて真実であると証明される時代がやってきた。私は、そう感じます。

なにより、ブツダ(仏様)ご自身が、

「あなたたち智慧のある者たちよ。

教えについて決して疑いの心を起こしてはなりません。

永遠に疑いの心を断つべきなのです。

なぜならブツダの言葉は全て真実であり、偽りなど一つもないからです。」と、語っておられるのですから。

「疑いを断ち」本気で信じ、祈った時、私たちの身体からは多くの【祈り】の物質や波動があふれ出し、電波に乗せずとも、一瞬で3000音も離れた人に想いを届けることも可能に違いない。私は、そう信じ祈ることにします。

そんな、私たちの想像をはるかに超えた力を生み出す、

本気の祈り

を令和三年の言葉にしたいと思います。

コロナ禍の終息のみならず、皆様それぞれの想いを「本気で祈って」参りましょう！
【祈り】の波動が、身体からあふれ出ることをイメージしながら…

合掌

南無妙法蓮華經

南無妙法蓮華經

南無妙法蓮華經